



二葉だより

令和5年1月10日 NO.10

墨田区立二葉小学校

校長 山崎 隆



「いつかやる…」を「いつかやる!!!」に

校長 山崎 隆

令和5年を迎えました。今年の干支はうさぎです。二葉小にも2羽のうさぎがいます。名前はノアとマシュマロです。ノアは茶色い毛並のお母さん、マシュマロはグレーの毛並の娘です。いつも仲良く寄り添っている姿はとてもほのぼのとしています。普段は鳴き声を聞くこともなく、表情も変えず動きも少ないので、「いったい何を考えているのだろう?」ととても興味がわきます。

子供たち一人一人には、新年を迎えて気持ちが新たなこの時期に考えて表現してほしいことがあります。それは具体的な目標や計画です。この1年で自分はどう成長するのか、何ができるようになりたいか、そのために何をするのかなど、できるだけはっきりとした目標とそれを実現するための計画です。昨年の月曜朝会で、「目標を立てただけでなかなか取り組まずに『いつかやる…』のままになっていませんか。『いつかやる…』が『いつになってもやらない』にならないようにしましょう」と、自戒も込めて子供たちに問いかけました。せっかく目標を立てても「いつかやる…」という気持ちで後回しになっては、せっかくの成長のチャンスを逃してしまいます。

カタールで行われたサッカーのワールドカップは記憶に新しいところですが、会場となった首都ドーハは1993年の予選で日本がワールドカップ初出場を逃した「ドーハの悲劇」の舞台でもあります。当時、私も夜中のテレビ中継を祈るように見つめ、最後の最後で相手に得点を決められて落胆しました。カタール大会で日本代表を率いた森保一監督は、ドーハの悲劇の代表メンバーの一人としてずっと悔しい思いを抱き続けてきたと言います。「あんなに悲しいことはなかった。なぜ自分が守りに行けなかったのか。」と、終了直前にゴールを決められた映像に今でも胸が締めつけられ、日本が4年後のフランス大会で初出場を果たしても、日韓大会でグループリーグを突破してベスト16に入っても、ロシア大会で強豪ベルギーを追いつめて世界を驚かせても、サンフレッチェ広島島の監督として3度 Jリーグの優勝を成し遂げても、ドーハでの悔しい思いは森保監督の心にへばりつittedままだったそうです。

ドーハの悲劇から29年後、当時と同じカタールの地でワールドカップ本選が開催されました。結果は日本サッカー界の目標であるベスト8にはあと一歩届きませんでした。森保監督率いる日本代表は素晴らしい結果を出しました。グループリーグで世界の強豪ドイツやスペインに逆転勝利し、日本を歓喜の渦に包んで世界をあっという間に驚かせた日本代表の大活躍は、ドーハの悲劇を糧として「いつかあの悔しさを晴らしてみせる」という強い思いがもたらしたのではないかと私は思います。森保監督は日本サッカー界の1人として、日本代表はチームとして、「いつかやる!!!」とその機会をうかがいながら本気で努力を重ね、その結果が今回の「ドーハの歓喜」につながったのだと思います。

子供たちにも、目標を定めたら「いつかやる…」ではなく「いつかやる!!!」と、「…」を「!!!」に変えて、強い気持ちで本気で取り組んでほしいです。もちろん、私たち大人も。

新しい年に願いと自戒を込めて。